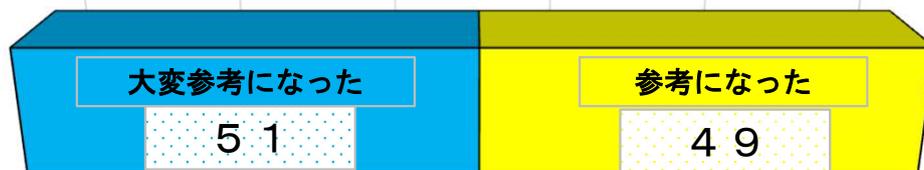


【研修で参考になった点】

- ・ 子供と教師の接し方、自己決定理論を具体的に説明していただいた点
- ・ 心の中にあったマイナスの思い出が聞いてもらえたとし、肯定的に捉えてもらったことで自分の気持ちを少し整理できた点
- ・ 子供の話を聞くときに得てして客観的な判断をしてしまい、子供の気持ちより一般的な論理にもっていこうとする。今回教わった支えるという視点で考えると、子供の小さな話に寄り添う大切さが分かった。
- ・ 心の中に小さなプラスをつくる大切さを考え、2学期を迎えようと思った。
- ・ その子なりの「分かってもらえる感」を積み重ねていく必要感を意識することができた。小さな物語に耳を傾けていきたい。
- ・ 徹底的に寄り添うことの大切さについて改めて考えることができた。苦戦しているという考えが参考になり大事にしていこうと思った。
- ・ 苦戦している子供への支援に活かせそうだと思った。
- ・ ローカルストーリーに耳を傾ける。そのために時間をつくって関わりをもつよう心掛けようと思った。
- ・ ナラティブという考え方を初めて知った。話し手が声を出して話してくれるよう小さなプラスを少しでも増やしてもらえよう日々接していく。
- ・ ワークをしてみることで安心感や心地よさを感じることができた。子供や人と関わる中で生かしていきたい。分かって、支えようとする大切さが分かった。
- ・ レッドゾーンの子供がマイナスを受け入れられない理由、プラスをつくることからスタートという話が共感的に聞けた。プラスをつくるためには、小さな声に耳を傾けることが大切だと分かり、学級運営、生徒指導に生かしていきたい。
- ・ 小さなことに耳を傾けようとする姿勢から、小さなプラスづくりや寄り添った支援を心掛けようと思った。
- ・ 子供の中に「+」を増やしていくことが大切だということ、分かり合うための方法、感覚が少しだけ理解できたように思う。
- ・ 自己決定理論を具体的に説明を受け分かりやすかった。
- ・ 大きな物語に着目しがちだが、子供の小さな物語を理解し聞こうと思った。子供の思いが分からないときは、分からない教えてほしいと寄り添っていきたい。
- ・ 認められる経験があるとマイナスも受け入れることができる。マイナスを受け入れるのを避ける。プラスに無理矢理受け入れられる経験を少しずつつくっていく。
- ・ Local story を聞くことが重要なのだろう。普段からそれが言える関係づくりをしていこうと思った。
- ・ 小さな物語に耳を傾けることが大切。あなたの世界を教えてほしい、聞かせてほしいという思いで話を聞くことが大切だということが分かった。ワークでは話を聞いてもらうことの良さについて気付くことができた。
- ・ 生徒の悩みを聞きたいと思うが、素直に本音を打ち明けることが難しい生徒がいる。心掛けたいポイントを教えることができた。プラスマイナスの事柄は構造的で分かりやすかった。
- ・ 苦戦する子供に些細なことでも話を聞いてあげたり、いつも味方だよという姿勢で接したりしたいと思った。
- ・ 大きな物語に小さな物語が飲み込まれがちだという点は同感。個々のストーリーにしっかり耳を傾けようと思った。土台が不安定な子供が多く、プラスを入れてあげたいと思った。もっと時間をかけて寄り添えたら良いんだと思う。
- ・ 心の中に小さなプラスをつかっていくという感覚が分かりやすかった。聴いてもらっているという感覚があり、話しやすかった。
- ・ 心のパワーがたまっていない子に、パワーを入れることはとても難しいことだ。でも、パワーが抜けていく穴を埋めてあげることができたらいいと思った。そして、パワーがたまっていくのを見守ってあげられたらいいと思った。
- ・ 相手を理解する、相手の立場になって考えることの難しさに改めて気付いた。今後は小さなプラスづくりを心掛けたい。
- ・ 心の中のプラス作りを学校や園だけでなく、家庭でも同様にするのを改めて実感しました。保護者にもたくさん共感して、保護者自身にもプラスが増えるような関わりをしていきたいと思いました。Yesセットを会話の中で増やし、Yesメッセージをどんどん使っていきたい。
- ・ 分かってもらえる経験を自分自身も気をつけて今後関わっていきたい。
- ・ 他者から強制され上手にできたとしても、それは有能感の醸成につながりづらいこと。
- ・ Yesセットの話を聞いて今まで考えたこともなかった視点をもつことができた。
- ・ Yesセットが言えるようになりたい。徹底的に寄り添う姿勢は難しいと思うが頑張りたい。
- ・ 小さな物語を聞いて相手のことを少しでも安心して過ごせるようにしていきたい。
- ・ 小さな物語という言葉が印象に残った。自分も聞いてもらえる経験ができ嬉しかった。

- ・ マイナスがこれ以上は入れないと反発を起こすことがある。だから、少しでもプラスを作ってあげることが大切だと感じた。分かってもらえる、理解してもらえる体験が、プラスを作ることから少しでも子供の声に耳を傾けられれば良かった。
- ・ 小さなプラスづくりのためのワークがよかった。
- ・ 小さなプラスを作るためにどんなアプローチが大切か。自分が聴きたいことと、子供が話したくないことと、一致していることが多いと感じた。
- ・ 苦戦する子供の状態をプラスマイナスで知ることができたのは分かりやすかった。アプローチの方法も理解しようとする、一生懸命耳を傾けることを再認識できてよかった。
- ・ マイナスが受け入れることができない子の気持ちが分かった。子供を支える環境の大切さが理解できたので支えられる環境をつくりたい。
- ・ 褒めることや励ますことが必ずしもプラスになる訳ではないことに驚いた。ある事象が起こったことや一時のことだけ見るのではなく、もっともっと多面的に子供を見ていかなければと思った。
- ・ 適当、苦戦と言い換えるなど日頃の言動や子供の関係性、有能性、自律性がうまく関連して動いているか等の見方をすることの大切さを学んだ。
- ・ 子供の本音を受け止め理解しようという思いを大切に、2学期からの子供との関わり方の参考にしたい。
- ・ 子供の循環システムで関係性、有能性、自律性の3つの歯車がかみ合っってよい循環となるようにしたい。
- ・ 教育は教える前に人間関係が重要というが、相手の心の中にプラス要素をいかにして作るかが関係づくりにつながるかが分かった。
- ・ 大きな物語の中に小さな物語が隠されており、子の小さな物語がとても大事であることが分かった。
- ・ 実際の子供を思い浮かべ、グリーン・イエロー・レッドゾーンの子への特徴や要因を理解することでプラスを増やす大切さと方法を考えることができた。
- ・ 不適応→苦戦しているというとらえ方はしっくりきた。よくなりたい、なんとかしたいという子供の気持ちをしっかり聞きたいと思った。
- ・ 支援を要する子供に対応するときの心構えのようなことが分かった。
- ・ マイナスが一杯になってくるとこれ以上増えないように、自分を守るために反発してくる。さみしさや孤独感を思っている以上に抱えると感じた。とことん寄り添っていきたい。
- ・ 保健室で徹底的に寄り添うと、なまぐらをさせていると感じられる先生がいるので、職場内のつながりも大切だと感じた。
- ・ ナラティブの視点、どうしても相手に対し「自分がこうすべき」「相手はこうなるべき」と思ってしまう。どちらも苦しくなる。また、自分の基本が b u t なので生徒指導の先生に Y e s で答えろと言われるが、大人相手だとストレスに感じることもある。

講演内容は参考になりましたか



あまり参考にならなかった、参考にならなかったと回答した人はいませんでした。

0% 20% 40% 60% 80% 100%